

**Profile**  
 ・2019年 宇土高等学校卒業  
 ・2023年 ミネルバ大学(本部はアメリカ)  
 コンピューターサイエンス学部/社会科学部卒業  
 オランダ ライデン大学コンピューターサイエンス  
 学部修士課程入学



教えて!

## 海外進学先での生活



4年間で世界各地に移住

多くの学びを糧に

研究活動にまい進

ミネルバ大学の卒業式で、ウクライナ、ナイジェリア、ブラジル出身の友人たちと記念撮影

### Chance [チャンス] 海外進学のきっかけ

高校生の時、大学で学びたいことが明確でない中、熊本県の海外チャレンジ塾に参加。複数の専攻ができる海外大学の特徴や幅広い学問領域を横断的に学びリベラルアーツ教育を知り、興味を持ちました。

### Challenge [チャレンジ] 進学に向けて頑張ったこと

日本の大学を受験する高校の友人たちとは、受験勉強や出願のタイミングが異なるため、モチベーションを保つのに苦労しました。そんな中、海外チャレンジ塾で知合った他校生とのつながりが、大きな支えとなりました。また、日米大学併願や、海外進学を決意したのが遅かったこともあり、TOEFLやSATの受験機会がとても限られていました。どちらの試験も長時間でさまざまな問題形式がある特徴的なテストなので、慣れるためにも早めの段

階で、一度受験してみることを個人的にはお勧めします。

### Chance [チャンス] 海外進学を機に変わったこと

ミネルバ大学の柔軟性の高いカリキュラムは、「研究者支援に携わりたい」という漠然とした目標に対して「自分ならどの分野から貢献できるか」を考えるきっかけを与えてくれました。大学1年次に統計学、特にデータを駆使して物事の原因と結果の関係を理解する因果推論に興味を持ち、そこから経済分野に特化した計量経済学も学びました。横断的な分野を探究していく中で、因果推論を学術研究活動に応用する科学計量学に出会い、最終的にはこの分野で卒業論文を執筆しました。現在はオランダの大学院で、科学計量学とサイエンスコミュニケーションを学んでいます。学びをアップデートしていく海外進学での経験は、私のキャリアの方向性を明確にしてくれました。

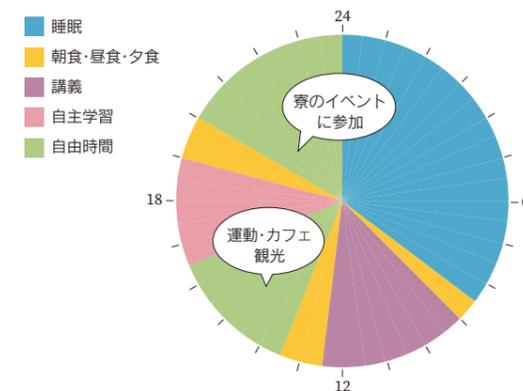
### 「キャンパス」がない大学生活

ミネルバ大学は全寮制の私立総合大学で、学生は4年間で世界7都市に移り住みながらオンラインで授業を受講します。また、街がキャンパスというコンセプトのもと各都市にキャンパスはなく、学生は現地のレストランや図書館を利用したり、地元のスポーツチームに所属したりします。私も、アルゼンチンのブエノスアイレスに滞在していた時は、現地の社会人水泳チームに所属してスペイン語で水泳のレッスンを受けていました。言語の壁もありますが、練習や合宿を通してアルゼンチンの国民性や情勢、過去の歴史について多くを学ぶことができました。

### 休日の過ごし方

台湾に滞在中は毎週末、友人と登山へ。イギリスでは、学生割引を使ってミュージカルやバレエを鑑賞したり、ミュージアムめぐりをしたりもしました。

### ある日の1日



日本を紹介するイベントに参加した時の様子(後列真ん中)



大学創設者のベン・ネルソン氏と



### 先輩へのメッセージ

#### 学生が大学を選ぶ権利もある

「何としても海外の大学に合格する!」という思いで、海外進学を志望していた当時の自分に伝えたいのは、「学生が大学を選ぶ権利もあるということ。ランキングや評判を基に志望校を決めるのではなく、「自分に合った教育や環境を提供してくれるか」「生徒のウェルビーイングを大切にしているか」などを、ぜひ考えてみてください。留学中につらいことがあった時に、自分なりの理由が心の支えになると思います。応援しています!

**Profile**  
・2019年 熊本高等学校卒業  
・2023年 アメリカ ジョージア工科大学建築学部卒業  
ハーバード大学デザイン大学院建築修士課程入学



寝ても覚めても建築を考える日々  
学科の優秀賞を受賞し  
夢への一歩着々と

ジョージア工科大学の卒業式、自分の卒業作品の前で

**Chance** [チャンス] 海外進学のかきかけ

元々バレエで世界を目指していましたが断念し、別の道でバレエ以上に頑張ろうと思い、海外進学を目指しました。益城町に住んでいる時に熊本地震で被災し、「住」の大切さを改めて実感すると共に建築分野に興味を持ち、建築学に力を入れているアメリカの大学で勉強をしたいと思いました。

**Challenge** [チャレンジ] 進学に向けて頑張ったこと

海外進学の準備で苦労したのは、エッセイ作成や課外活動を通して「自分が将来やりたいこと」を考えることです。高校までバレエ一筋だったので、他の何かを考えたことがなく、自己分析にとにかく時間がかかりました。

**Change** [チェンジ] 海外進学を機に変わったこと

アメリカは地域ごとに住む人の特色が大きく異なり、それによる大学のカラーの違いが面白いです。大学が提供する学問そのものは全国共通ですが、多様なバックグラウンドが教育のアプローチや重視される考え方に影響を与えています。ジョージア工科大学はアメリカ南部の社会課題解決に貢献することが教育方針の一つとなっています。この方針の下、アトランタでのフィールドワークを通して、政治的・経済的な観点からの建築を学びました。学部生活をアメリカ南部の公立大学(STEM教育\*重視のジョージア工科大学)で過ごしたため、大学院は東部の私立大学(文芸的なハーバード大学デザイン大学院)に進学し、いろんな意味で「真逆の環境」で建築学を学んでいます。将来は、建築家になることに加え、大学教授として建築学の在り方を追究したいです。

\*科学技術の発展に貢献できる人材を育てることが目的の教育モデル

教えて！

海外進学先での生活



■印象に残っていること

大学では建築の基本から設計の高度なスキルまで学び、ほぼ毎日スタジオにこもり、寝る間を惜しんで設計プロジェクトに励みました。

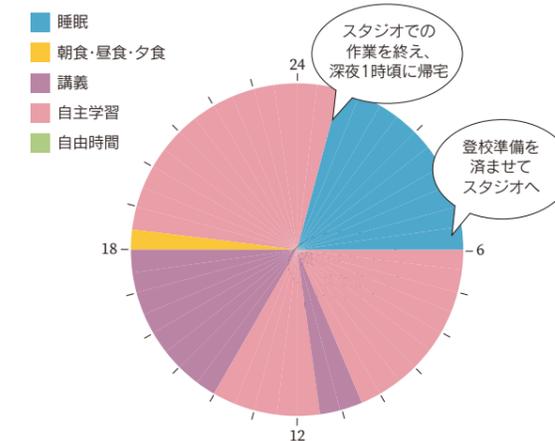
印象深いのは、数値流体力学解析を用いたウイルス感染症と換気システムの研究。それを設計プロジェクトに応用し、ジョージア工科大学でシニア設計最優秀賞を受賞しました。卒業時には建築学科の一番優秀な卒業生に授与されるLewis P. and Patricia Lanter Student Award for Design Excellenceを受賞しました。

■日頃、意識していること

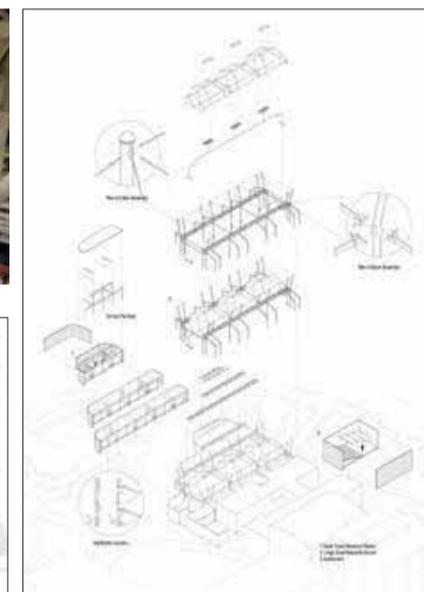
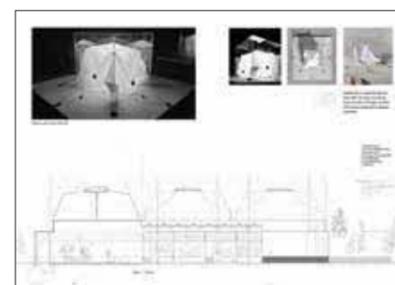
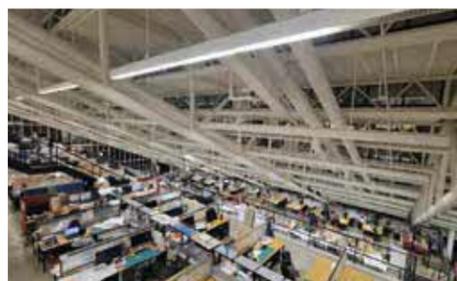
「将来どんな建築がしたいの?」と聞かれても「全部」以外の答えが出ないことが悩み…。建築分野は

答えを出すプロセスに時間がかかるので、日頃から建築について考えるくせを付け、パツと思いついたことを忘れないようにメモ帳を持ち歩いています。

ある日の1日



ハーバード大学のスタジオの様子

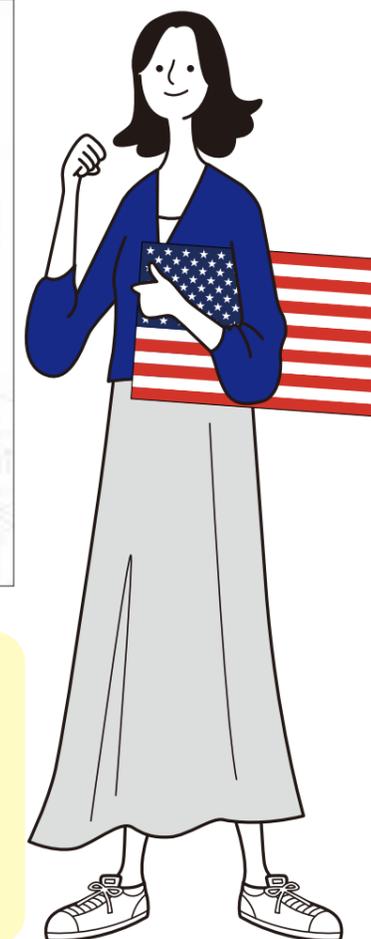


シニア設計最優秀賞プロジェクトの時の作品

先輩へのメッセージ

一生懸命になればチャンスは広がる

ジョージア工科大学で学んだことやアメリカの南部で生活したことは大変良い経験になりました。周りの環境や友人からたくさん刺激を受け、自分も負けないようしっかりと頑張った4年間でした。今はハーバード大学デザイン大学院でさらなる高みを目指して、日々建築に没頭しています。高校生の頃の私には想像もできなかったことでしょう。一生懸命になればチャンスはどんどん広がるので、頑張って夢を追いかけてください。





教えて！

## 海外進学先での生活



海外進学のポイントは自己分析  
将来はデータサイエンスなどを活かし  
金融関連の仕事を希望

友人とUCバークレー vs スタンフォードのフットボールの試合を観戦(左から4番目)

### Chance [チャンス] 海外進学のきっかけ

高校2年生の時、熊本県の海外チャレンジ塾で「海外進学を視野に入れてみてはどうか」とアドバイスいただいたことがきっかけです。それからいろいろ調べるうちに、海外大学生活が楽しそうだと感じ、また多くの選択肢がある海外大学が自分に合っているかもしれないと考えました。今となっては本当に良い選択をしたと感じています。

### Challenge [チャレンジ] 進学に向けて頑張ったこと

高校2年生で海外進学を決め、少し遅めのスタートだったため、試験やエッセイの対策で苦労をしました。英語には自信があったものの、SATやSAT Subject Tests、TOEFLなどの準備にてこずったことも。締め切りギリギリまで取り組んだエッセイ作成は、自分がどのような人物なのか、何に興味を持っているのか、どのような学びがしたい

のかなど、自己分析をどれだけできるかが鍵になると思いました。

### Chance [チャンス] 海外進学を機に変わったこと

スタンフォード大学に進学して、多くの優秀な友人と知り合いました。彼らに囲まれ、日々切磋琢磨する環境に身を置くことが、個人の成長にどれだけ重要であるか、大学生活を通じて感じています。

現在はデータサイエンスや最適化、コンピューターサイエンスなどを学び、最近では企業の資金調達や年金基金の運用戦略の高度化などに興味があります。将来はデータ分析を活用した金融関連の仕事に進みたいです。

大学は人生における一つのスタート地点であり、単なる分岐点に過ぎません。以前は安定を重視するタイプでしたが、最近では絶えず学び成長できるような、変化を恐れない自分でいたいと強く感じています。

### ■ 休日の過ごし方

友人とカフェに行ったり勉強をしたり、ご飯を食べに行ったりして、ゆったりと過ごしています。長期休暇の際には、友人とロサンゼルスやバンコク、メキシコなど、いろいろな地域に旅行しました。また、夏休みはインターンシップやリサーチなどをして過ごしています。

### ■ 留学生の生活環境

留学生は学部生の10%以下ですが、それでも留学生へのサポートは充実しています。学部生は基本的に全員が寮に住んでいて、大学の食堂を利用します。キャンパスもとても広くきれいで、すごく満足しています！

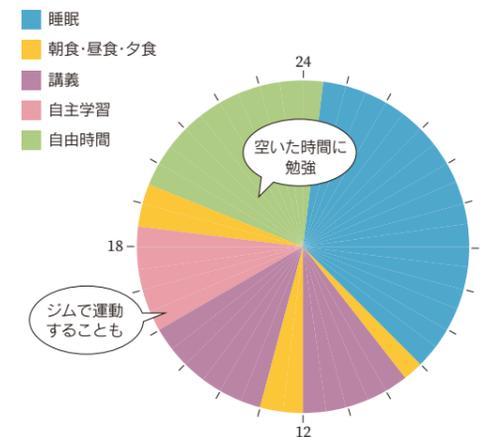


スタンフォード大学は全米有数の大規模なキャンパスです



カリフォルニア州の伝統に従いスペインコロニアル様式で統一されたキャンパス

### ある日の1日



### 先輩へのメッセージ

#### 全ての経験に無駄はない

海外大学受験は正解のないパズルのようなものだと思います。だからこそ、自分の個性や価値観、頑張りをしっかりと見せる機会でもあります。好きなことを突き詰め、大学に自分のユニークさを見せることが重要だと思います。受験の過程で不安や疑問を感じる瞬間もあると思いますが、全ての経験は絶対に無駄ではないので、自信を持って頑張ってください！



サンフランシスコのゴールデンゲートブリッジの前で (真ん中)



Profile  
・2020年 玉名高等学校卒業  
カナダ トロント大学応用科学工学部  
材料工学科入学



実践的な教育や  
長期インターンシップなど  
授業の質の高さを実感

2022年にトロント大学  
で開催されたカナダ材  
料科学学会での一コマ

Chance [チャンス] 海外進学のかきかけ

高校1年生の時、交換留学したのをきっかけに、世界各国から集まる学生と交流を深め「ネットワークを広げたい」という思いが芽生えました。それから海外進学について調べる中で、海外の大学では実践的な教育や長期インターンシップを経験できることを知り、海外進学への思いが高まりました。

Challenge [チャレンジ] 進学に向けて頑張ったこと

海外大学を受験するにあたり最も苦労したことは、英語力の向上です。TOEFLは高校1年生の時から受験を開始しましたが、スピーキングとライティングの点数が思うように伸びず、アウトプットの訓練を重点的に取り組みました。また、海外大学への出願には担任の先生や各教科の先生に推薦状を依頼する必要があり、準備にはかな

りの時間を要することを痛感しました。

Change [チェンジ] 海外進学を機に変わったこと

海外大学での学びを深める中で感じたことは、実践的な教育の質の高さです。私が所属する材料工学科では、実際に企業が活用しているCADやFEA(有限要素法)といったソフトウェアを授業に取り入れています。特に大学教育の総仕上げとして4年次に取り組む「capstone」と呼ばれる最終プログラムでは、企業が実際に抱えるビジネス課題と向き合い、企業の方々と協働しながら解決に近づくための方法を探ります。

私は、大学での学びを通じて、世界には解決しなければならない課題が数多く残っていることを実感しました。これらの課題を解決するためにも、今後は大学院に進学し、材料科学に関する専門性を高めたいと考えています。

教えて！

海外進学先での生活



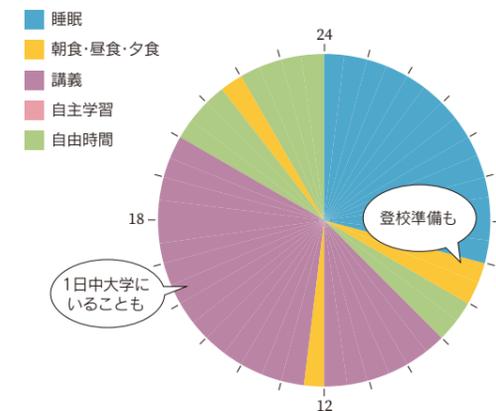
留学生の生活環境

私の住んでいるトロントには留学生が多いため、留学生サポートセンターやアカデミックアドバイザーなど留学生専用のサポートシステムが整っています。また、トロントは家賃がとても高いので、寮を選択している人が多いです。

休日の過ごし方

休日は午前中に1～2週間分の食材を近くのスーパーまで買い出しに行ったり、一週間でたまった洗濯物を片付けたりしています。全ての家事が終わったら、トロントのダウンタウンまで散歩をするなど自由な時間を過ごしています。

ある日の1日



居住アパート  
近くの公園に  
ある「Toronto  
dog fountain  
(犬の噴水)」



授業を受けている「Bahen Centre」という名前の建物



トロントの街並み

先輩へのメッセージ

海外進学を通して見聞を広めて

海外の大学には、日本の大学にはないユニークな教科や、長期インターンシップのような実践的な教育を受けられる機会がたくさんあります。また、多様なバックグラウンドを持つ人と交流を深められるので、見聞も広がります。進路を国内だけに絞るのではなく、海外の大学も候補の一つとして検討してみてもいいかもしれません。

